

「長期入院や児童福祉施設にいる子どもの QOL向上のための笑顔のおくりもの事業」

報告書



ののほけきしょう

2018年7月23日(月) 10:30~11:10

会場：後援病院 3F 小児病棟プレイルーム

パフォーマー：新田悠里・新田裕子 (MUSIC)

VEN TOWN FOOLS

2018年8月1日(水) 14:00~

会場：後援病院 3F 小児病棟プレイルーム

パフォーマー：VEN TOWN FOOLS

アフリカコンサート

2018年8月1日(水) 14:00~

会場：後援病院 3F 小児病棟プレイルーム

パフォーマー：アフリカ音楽隊

歌子さんのスマイルコンサート!

2018年8月1日(水) 14:00~

会場：後援病院 3F 小児病棟プレイルーム

パフォーマー：歌子さん

南樹村人形芝居「ねずみのぞもろ」

2018年8月14日(火) 7時プレイルーム 14:00~15:00

会場：後援病院 3F 小児病棟プレイルーム

パフォーマー：南樹村人形芝居

ののほけきしょう

2018年7月27日(金) 10:00~10:50

会場：日守ゆうこ保育園 幼児交流スペース

パフォーマー：新田悠里・新田裕子 (MUSIC)

ののほけきしょう

2018年7月21日(土) 10:00~10:40

会場：日守ゆうこ保育園 コミュニティホール 1F 多目的室

パフォーマー：新田悠里・新田裕子 (MUSIC)

体をつかっていっしょにあそぼう

2018年8月4日(土) 10:30~11:50

会場：舞城交流ホール 1F 多目的室

パフォーマー：大塚由香 近藤美穂

歌子さんのスマイルコンサート!

2018年8月4日(土) 10:30~11:50

会場：舞城交流ホール 1F 多目的室

パフォーマー：歌子さん

体をつかっていっしょにあそぼう

2018年8月7日(火) 13:30~14:30

会場：日守ゆうこ保育園 2F 幼児交流スペース

パフォーマー：大塚由香 近藤美穂

アフリカリズム&パーカッション

2018年8月22日(水) 16:00~17:00

会場：ひかりの子学園 1F 食堂

パフォーマー：関モフラン ダウディ 典子

アフリカリズム&パーカッション

2018年8月10日(金) 9:30~10:30

会場：恩師園 1F 大食堂

パフォーマー：関モフラン ダウディ 典子

アフリカリズム&パーカッション

2018年8月31日(金) 13:30~14:30

会場：一宮学園 体育館

パフォーマー：関モフラン ダウディ 典子

主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102 号
TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263
E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp URL http://chiba.gekijou.org/

目的

血液疾患や重度心身障がいや疾病等で長期入院を余儀なくされている子ども、虐待や家庭の事情で親子分離され、乳児院などで暮らしている子ども、また福祉施設で生活し地域の学校に通学している子どもたちに対し、プロの芸術家による、人形劇や音楽、歌、パントマイム、ワークショップを届け、子どもたちの笑顔による、QOL向上を図る。病児に付き添う保護者や、ケアする職員も一緒にホッとする時間を過ごします。子どもの成長発達にとって、家族や仲間といっしょに楽しく「心をあそぶ」ことは不可欠であり、特に閉ざされた空間で暮らさざるを得ない子どもたちに、癒しや励ましとなり笑顔になるよう、外からの支援をします。

●プロのパフォーマーによる公演実施病院6か所

NO	実施日・時間	実施病院・施設	パフォーマー	子ども+大人 総参加人数	子ども 参加人数	大人 参加人数
1	7月23日(月) 10:30~11:30	海浜病院 3Fプレイルーム	ののはなげきじょう 納富俊郎他1人	29	12	17
2	8月1日(水) 14:00~14:50	下志津病院 療育訓練室	アフリカンコンサート BBモフラン他2人	110	49	61
3	8月14日(火) 14:00~15:00	こども病院 7Fプレイルーム	ハローカンクロー ねず みのすもう くすのき燕	24	14	10
4	8月20日(月) 10:00~11:40	千葉リハセン 病室 大ホール	歌子さんのスマイルコン サート 歌子さん他3人	191	123	68
5	8月22日(水) 14:00~15:30	千葉東病院1階の31 病棟、2階の32病棟	歌子さんのスマイルコン サート 歌子さん他2人	107	65	42
6	10月17日(水) 14:00~14:40	国府台病院 東3病棟ホール	びりとブッチィーのクラ ウニングシアターびり他2人	52	33	19
	合計	6か所	16	513	296	217

●プロのパフォーマーによるワーク実施7か所

NO	実施日・時間	実施病院・施設	パフォーマー	子ども+大人 総参加人数	子ども 参加人数	大人 参加人数
1	7月21日(土) 10:00~10:40	コミュニティ長柄 1F多目室	ののはなげきじょう 納富俊郎他1人	25	11	14
2	7月27日(金) 10:00~10:50	ほうゆうベビーホーム1F 地域交流スペース	ののはなげきじょう 納富俊郎他1人	31	20	11
3	8月4日(土) 10:30~12:00	房総双葉学園 地域交流ホール	体を使っていっしょにあ そぼう 大潤弘幸他1人	26	21	5
4	8月7日(火) 13:30~14:40	ほうゆうキッズホーム2F 地域交流スペース	体を使っていっしょにあ そぼう 大潤弘幸他1人	40	30	10
5	8月10日(金) 9:00~10:00	恩籠園 1F大食堂	アフリカダンス&パー カッションモフラン他2人	36	30	6
6	8月22日(水) 16:00~17:00	ひかりの子学園 1F食堂	アフリカダンス&パー カッションモフラン他2人	39	29	10
7	8月31日(金) 13:30~14:30	一宮学園 体育館	アフリカダンス&パー カッションモフラン他2人	58	40	18
	合計	7か所	17	255	181	74

「ちば子ども文化地域コーディネーター」

本事業では、当団体が認証し、継続的に病院や施設との調整役を担う専門性の高い「ちば子ども文化地域コーディネーター」を位置づけ、人材の育成をし、よりすぐれたプログラムを提供できるよう研鑽しています。また、安心かつ安全に質の高い事業を展開していくために、綿密な計画と病院や施設のスタッフとの連携・協力、細心の注意を心がけています。子どもたちのプライバシーの保護や、守秘義務等が発生する病院や児童養護施設であるため、「ガイドライン」を作成しています。当団体に登録している「ちば子ども文化地域コーディネーター」は、現在 22 名です。

コーディネーターになるには、年 2 回のブラッシュアップのためのコーディネーター研修会に出席し、年間少なくとも、1 病院、1 施設以上の実績が必要です。(特) 子ども劇場千葉県センターでは、これら条件を満たしたコーディネーターに、専門性の証として「ちば子ども文化地域コーディネーター認定証」を発行しています。

ちば子ども文化地域コーディネーター認定証

所属 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター



COORDINATOR

NAME : ●●●●

AREA : 千葉県

AUTH : Apr. 1. 2018

発行：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

1. コーディネーターは、千葉県内の学校、病院、福祉施設に対し、あそびワークショップ、および舞台芸術に触れる機会を提供し、子どもたちが笑顔になり家族もホッとできる時間をつくります。
2. 子どもの最善の利益の確保に重きを置き、一人一人の子どもが達成感や満足感を得られるように、子どもの気持や各自のペースに寄り添います。
3. 安全を阻害するリスクを可能な限り予測し、万全の体制で臨みます。子どもと家族のプライバシーを守ります。
4. 学校、病院、施設スタッフ、芸術家、コーディネーターは、連携し、高め合い、事業が発展継続できるよう努力します。

●コーディネーター会議を 3 回開催

■第 1 回コーディネーター会議

日時：2018 年 5 月 17 日(木) 10:00～12:00

場所：千葉市民会館 第 4 会議室

- 内容：1 年賀寄附金配分事業の概要 目的 成果の確認
2 実施に必要な提出書類と会計処理についての確認
3 実施病院、施設の確定と可能性 課題
4 ワークショップの交流 研究
～ガイドライン～と照らし合わせて～



■第 2 回コーディネーター会議

日時：2018 年 9 月 13 日(木) 10:00～12:00

場所：千葉市民会館 第 4 会議室

- 内容：1 事業の進捗
2 ワークショップの交流 研究
～ガイドライン～と照らし合わせて～



■第 3 回コーディネーター会議

日時：2019 年 1 月 17 日(木) 10:00～14:00

場所：千葉市文化センター 9F 会議室 1

- 内容：1 事業のまとめ 成果の確認
～ガイドライン～と照らし合わせて～
2 報告書について 3 次年度の展望 4 その他

実施病院名： 千葉市立海浜病院

プログラム名：「ののほなげきじょう」

日時：2018年7月23日(月) 10:30~11:30
場所：プレイルーム 病室訪問
参加者 29人
(子ども12人 保護者11人 病院関係者6人)
演者：人形劇団ののほな
(納富俊郎 納富祥子)

プログラムの内容

しろくまちゃん ウレタンロボット
コップンコシアター ぴよちゃんケ
ロちゃん ねんねこねこのこもりうた



しろくまちゃんが登場し「みんなげんきかな〜？」とよびかけると、一人の幼児が「げんきで〜す！」と応え、一気に空気がなごんだ。ウレタンロボットの首が伸び縮みし、回転し…自由自在に動く「かわいい〜」「え〜首が伸びてる〜」「おもしろい！こんにちは〜」声が出て笑いが起きロボットが友達になったようだった。



病室訪問ではベッドの上で「かばのかっちゃん」を子どもが目の前で観てびっくり。仕掛けにおどろき嬉しそうに反応した。気管切開をした子は声が出ないが、口を見ると何を言っているかわかった。うれしそうに楽しそうにわらってんでいた。質問にはうなづきながら付き添いのお父さんと、笑顔で観ていた。

保護者からの声

- ・入院中に人形劇が観られてラッキーだった。子どもが笑って、親子共気分転換でき楽しめた。このような企画を続けてほしい。
- ・ウレタンやストロー 紙コップ等、手作りアイデアに感心した。作り方を教わりたい。
- ・子どもが楽しそうに声を出していたのでその姿にうれしくなった。親も癒された。

子どもの声

- ・ロボットの体をぎゃくにしたり、さいごのおまけのカバの場所がかってにうごいていたのがすごいとおもった。

病院関係者の声

- ・病室訪問の子どもたちが、腹話術のカバをみて一種のマジックのように映って楽しめた。
- ・乳幼児に内容がちょうど合っていて、声を出して笑い、劇に見入っている姿が多く見られた。

実施病院名：独立行政法人国立病院機構下志津病院

プログラム名：「アフリカンコンサート」

日時：2018年8月1日(水) 14:00~14:50
場所：療育訓練室
参加者 110人
(子ども49人 保護者25人 病院関係者35人)
演者：ビタシカオフィス(B.B.モフラン
ダウディ 典子)

プログラムの内容

ジャンボの歌 楽器紹介(おしゃべり太鼓 どんぐりころころ) アフリカの歌
・カタコリソリ=気をつけてマ・メ ライオンキングからマライカ
ハクマナタ(大丈夫) ソーラン節



会場はいっぱい。まずは、病院でいつも歌っている始まりの歌をみんなで歌っていよいよモフランたちが登場。「ジャンボ！」のあいさつに声を上げて喜んだ。アフリカの歌なのに日本語そっくりの言葉があり、保護者の皆さんが大笑い。保育士さんたちが背中や手を取って盛り上げていくと、ノリノリで大きな声や動きが出てきた。会場の室温があがって温度を下げにいく一場面も。

母親を見上げて目を動かし嬉しそうな子、最後まで体全部で表現していた子もいた。でんでん太鼓をよく振っていた子が、最後はモフランさんにプレゼントしてすごく嬉しそうだった。最後の曲になると「アンコール、アンコール」の大合唱。「ソーラン節」で盛り上がり終了。保護者もよく笑い、楽しんでいてとても温かいコンサートになった。



子どもの声

- ・もう一度聴きたい。
- ・体を使って楽しかった。
- ・アンコール「ソーラン節」がよかった。

保護者からの声

- ・すごい、素晴らしい。すごくよかった。とにかくよかった。
- ・母は、踊りたくなるくらい楽しかった。
- ・いつもはやらない父が手を叩いて楽しんでた。

病院関係者からの声

- ・子どもと家族がいっしょに音楽を聴き、体を動かし楽しい一時を過ごした。
- ・当日はもちろん次の日も話題にあがり、次回に期待する声も聞かれ共通の会話が増えた。

実施病院名：千葉県こども病院

プログラム名：「肩掛け人形芝居『ねずみのすもう』 腹話術『ハロー！カンクロー』」

日時：2018年8月14日（水）14:00～15:00

場所：7F病棟プレイルーム

参加者 24人

（子ども14人 保護者5人 病院関係者5人）

演者：人形芝居燕屋（くすのき燕）

プログラムの内容

肩掛け人形芝居『ねずみのすもう』
腹話術『ハロー！カンクロー』

子どもたちが車いすを上手に扱ってやってきた。中学生くらいの子が「前の方で観たい！」と言っていた。カンクローがカバンから出てきた途端に「ギャハハ・・・！」と大きな笑い声。なにかしゃべるたびに「ゲハハ・・・！！」小さい子も大笑い！カンクローと燕さんのやり取りにすぐ反応して笑い声。大きな子もクスクスと笑顔。カンクローと一緒に答えている子もいる。「ドレミの歌」ではお母さんたちも一緒に口ずさんでいた。カンクローがカバンに入ると「あー面白かった！」と声が聞こえた。途中の休憩時間に「カンクローはどこへいったの？」何人もの子に聞かれた。「ねずみのすもう」で前列の幼児たちが「みあって！みあって！」「ちゅうこちゃん、さらわれたよ～！」「たべものないの？おもちあるよ！」などと勢いづいてネズミを応援した。大笑いを連発！していた子もいた。



子どもの声

- ・楽しかった。生でふくわ術みたのははじめてで、かみあわせがすごいと思った。またみたい。
- ・牛乳を飲むシーンではどうやっているのかとても不思議だった。そして自己紹介がとてもおもしろかった。腹話術は本当にすごくて全然唇が動いていなくてびっくりした。本当にありがとうございました。
- ・楽しかったよ（ねずみの絵つき）・おもしろかった
- ・またみたい・ネズミもおもしろかった
- ・カンクローが世界で2番目でおもしろかった。

保護者からの声

- ・ありがとうございました。たのしかった。
- ・久しぶりに笑ってくれた。

病院関係者からの声

病棟の中で、久しぶりに子ども達の楽しそうな笑い声をきいた。入院中、治療やリハビリなど、頑張らなければいけないことばかりの中で、子どもらしく楽しめる時間を提供できたことで、次の頑張りにつなげることができたと思う。

実施病院名：千葉県千葉リハビリテーションセンター

プログラム名：「歌子さんのスマイルコンサート」

日時：2018年8月20日（月）10:00～11:40

場所：病室訪問 大ホール

参加者 191人

（子ども123人 保護者17人 病院関係者51人）

演者：リーフ企画（歌子さん びんたろう
じゅんちゃん）

プログラムの内容

シャボン玉・となりのトトロ・砂山・さとうきび畑・輪になって踊ろう・ゆうやけこやけ

みんなチケットを持ってコンサート。ゆるゆる～と演奏が始まり、びんたろうが職員に「あ～」と声を出して頼み、それがだんだんと拡がり「あ～ あ～ あ～ イラライ イラライ ヤホヤホヤホ」とみんなの歌声が一つに。歌子さんがシャボン玉を飛ばし歌い、会場をまわった。「きれいだね～」とスタッフが子どもたちに語りかけた。サトウキビだけの歌では大人も子どももじっくり聴き入っていた。身体をゆらし口ずさみながら聴いていて穏やかな顔。子どもを代表して女の子が歌子さんに一言「歌子さんのこえがうつくしくてうれしかった。」



病室訪問では、演奏しながら全員のベッドを回った。うたこさんの美しい声と、ギターとドラムの音色が響いた。音に反応して足を振るわせたり目を見開いたりしていた。子どもの手をドラムにあてると、たたく振動を感じているようだった。

保護者からの声

- ・小さな子どもを連れたママたちが、お見送りをしている歌子さんに声をかけて退室した。「楽しかった」「癒された」「もっと歌ってほしかった」と喜んでた。
- ・コンサートに行きたいけど常に吸引があるのでなかなか行けない。今日はほんとにたのしかった。と若いお母さん。
- ・おばあちゃんが「感動して泣けてきました」と目に涙があった

病院関係者からの声

- ・ベッドでの生活が中心の子どもたちにとって、ベッドサイドでコンサートしてもらえたことはとても大きな喜びにつながった。
- ・コンサートに行く事を楽しみに過ごす、子どもたちにとって何かを楽しみにする時間は生活の質の向上そのものだと思います。

実施病院名：独立行政法人国立病院機構千葉東病院

プログラム名：「歌子さんのスマイルコンサート」

日時：2018年8月22日(水) 14:00~15:30
場所：31病棟32病棟指導室
参加者107人
(子ども65人 保護者3人 病院関係者39人)
演者：リーフ企画(歌子さん ぴんたろう
じゅんちゃん)

プログラムの内容

「シャボン玉」「となりのトトロ」「すなやま」「いつも何度でも」「ゆかいに歩けば」「大きな古時計」。「輪になって踊ろう」



31・32病棟とも子どもの笑顔いっぱい。いい表情、声を出して興奮。リズムに乗って「あー、うー」と声が出た。あたま、うで、あし、からだを揺らした。手拍子も出た。看護師に抱かれていた子は目が見えなく耳も聞こえないけれど太鼓の振動を感じていたようだ。幼いころから10年以上、入っているという男の子は、お母さんと手をつないで笑顔で顔を見合わせながら一緒に歌っていた。病院スタッフはひとりひとりの子どもの表情や様子の変化を見つけては、笑顔ですぐに教え合っていた。子どもにも「〇〇さん、すごいね」、「〇〇さん、よかったね」と声をかけていた。

最前列の車いすの女の子が歌子さんの歌にあわせて一緒に歌ったり、「がんばれよ」と歌子さんに話しかけ、歌子さんが「うん、私もがんばるから。がんばって」とこたえていた。その隣の女の子は、それまでじーっと演奏をきいていたのだが、アンコールのトトロのとき、ぼろりと涙を流したのを歌子さんが見つけて歌子さんも涙したようだ。ひとりのアクティブな子のオーラがこの子の感情を引き出したのではないかと。心揺さぶられる化学反応が起こった。



保護者からの様子

- ・歌にあわせて子どもたちがリズムに乗って楽しんでいた姿、本当に良かったと思った。楽器をそばで見せていただき、子どもたちも良かったと思った。
- ・今日のために体調を整えて家族と一緒に楽しんだ。親子三人、お互いに元気をもらっている。また来ます。

病院関係者からの声

- ・デイルームでの演奏で近くの部屋にも聞こえて、部屋から出られない子でも楽しむことができた。
- ・喜んでいるので、日々ルーチンワークのような生活に楽しい刺激になり、よければ続けてもらいたい。

実施施設名：国立研究開発法人国立国際医療研究センター 国府台病院

プログラム名：「びりとブッチィーのクラウンニングシアター」

日時：2018年10月17日(水) 14:40~15:40
場所：東3病棟ホール
参加者52人
(子ども33人 保護者2人 病院関係者17人)
演者：蒼い企画(びり ブッチィー)

プログラムの内容

・シャツ抜き・ビリのパント(かばん、帽子、ロープ)・チョコはどっち?・皿回しに挑戦・ジャグリング・ドラムとサクスの演奏「オーバーザレインボー」・鳥かごの中の花とねじ回しの人形「ポルカ」



小学生が準備の時から一番前に座って見ていた。びりとブッチィーのやり取りに声を出して笑った。ジャグリングでボールをスルッと取り合うと「ホー!ホー!」「おー!」と感動の声と大きな拍手。びりさんの動かないカバンに「すげえ!」皿回し、一そっち?早く言って!のブッチィーさんのトークにみんな、ノリノリについてきた。皿回しに3人の子がさっと手をあげて中学生の女の子が挑戦。うまくいって大きな拍手。びりが帽子を探すところやチョコはどっち?では一生懸命ジェスチャーで教えていた。声を出してもいいのに。

素敵なお話の「ポルカ」には、感情移入して演者と一緒に息をひそめたり、見つめたり、興奮したり、子どもたちの豊かな感性が見られた。終演後は、サイン会の行列。



子どもの声

- ・とても楽しかったし、とてもおもしろかった。自分のかよっている福祉のほうにもきてほしい。さいごの花のやつは感動した。
- ・はじめからすっごくすっごくいい感じで、音楽(sax、スネア)も楽しませて、ちょー良い日になった。マジックとかお花とか!沢山沢山のもので、良かった。
- ・すごかった。1か月に1回くらいみたい。特に楽器が上手くてすごかった。びりのぼうしとれるのが面白かった。不思議な動きがすごかった。
- ・かばんがういてるように見えた。おもしろかった。

病院関係者からの声

- ・大きな声で笑い、びりとブッチィーさんが成功すると拍手で尊敬、とても表情と感情が豊かになれた時間だった。
- ・楽しい時に笑う事こそ遠慮してしまうような感じだが、素直に自分の感情を表現した、できた、という一つの成功体験につながったと思う。
- ・とても素直に子どもらしく反応しているのが印象的だった。またぜひお願いします。・すごく感動した。こんなに子どもの心を掴んでとりこにするなんて驚き。

実施施設名：コミュニティ長柄
プログラム名：「ののはなげきじょう」

日時：2018年7月21日（土）10:00～10:50
 場所：多目的室
 参加者 25人
 （子ども11人 施設関係者14人）
 指導者：人形劇団ののはな（納富俊郎 納富祥子）

ワークショップの内容

しろくまちゃん ウレタンロボット
 コップンコシアター びよんちゃんけ
 ろちゃん ねんねこねこのこもりうた
 交流



はじまり、パチパチと小さな手をたたいてくれた。全員が保育士さんに抱っこされてじーっと観ていた。なに？と指を指して笑った。次々出てくる人形に興味深々。「虫さん？」と保育士さんに聞いていた。ウレタンロボットで友達の犬が英語をしゃべるのを真似をし「いま、ペロー（ハロー）って言った」会場に笑いが起きた。コップンコ劇場で「イチゴ」「バナナ」声がいっぱい出た。たまごの歌は保育士も一緒に歌った。ぞうさんのうた キリンさんのうた うさぎさんのうた 3つとも「ぞうさん」のメロディーなのでおかしくてみんなで歌った。ケロちゃんが「こんにちは」とあいさつすると、子どもたちも「こんにちは」とあいさつ。小さなびよんちゃんケロちゃんは保育士と一緒に演じ、笑顔がいっぱいになった。終演後しろくまちゃんと握手したり、好き好きしたり、優しく穏やかな雰囲気子どもたちもうれしそう。保育士のおひざにすっぽりはまって安心の顔。年長の子が「またくる？ 火曜日にくる？」と、別れがたい様子で私たちに聞いた。また来てほしい！そう思っているのだ。是非また来たいよ！

施設関係者からの声

- ・時間も丁度良く、月齢の低い子どもたちも最後まであきらめことなく集中して見ることができた。
- ・子どもたちは集中して興味をもったキラキラした目で劇を見ていた。心静かに想像をふくらませる時間は、子どもたちにとって、とても大切な時間で良い時間をいただけたと思う。
- ・子どもたちが感性豊かな人となれるよう、今後も継続していただけたらと思う。



実施施設名：社会福祉法人鳳雄会 ほうゆうベビーホーム
プログラム名：「ののはなげきじょう」

日時：2018年7月27日（金）10:00～10:50
 場所：地域交流スペース
 参加者 31人
 （子ども20人 施設関係者11人）
 指導者：人形劇団ののはな（納富俊郎 納富祥子）

ワークショップの内容

しろくまくん ウレタンロボット コ
 ップンコシアター びよんちゃんけ
 ちゃん ねんねこねこのこもりうた



大きなベビーカーに6人くらい乗り、保育士に抱っこされている乳児や、手を引かれてくる幼児が入場。「しろくまくん」が始まるとしろくまくんをじっと見つめる子、体は動かず、声も立てず、見入っていた。少したつと保育士の顔を見て一緒に手を叩いた。不安そうな顔をした子がキョロキョロ周りをみて、舞台を全くみていない様子だったが、そのうち保育士にくっついてしばらくすると、舞台を観はじめた。いつもと違う空気を感じて不安だったのだろう。しろくまくんのかわいく優しい動きに、さっきまで泣いていた子もおとなしく指をしゃぶりながら見ている。「ウレタンロボット」体操する場面で少し笑声がでた。保育士たちは大笑いしていた。納富さんのわんわん！の声でびっくりしたのか、少し離れて見ていた子が保育士の膝にすぐ戻り抱っこをせがんだ。コップンコシアターでのなんでしょう？「赤い果物」「いちご！！」「黄色いもの」「バナナ！！」やっとな大きな声が出てきた。びよんちゃんけろちゃんは、先生方にもってもらいっしょに演じてにっこり。

施設関係者からの声

- ・普段絵本に集中することが少なく、劇などを見せたこともなかったので、最初は不安でしたが、子どもたちが夢中になり、楽しそうに集中して見ていて、すてきな体験をした。
- ・人形の動きが、かわいかったり、面白く、子どもたちの表情が笑顔であふれていた。お話し後は人形や、ののはなの方々とふれあいの時間があり、手と手を合わせたり人形にギュッと抱きついたり親しめた。
- ・子どもたちのかけがいのない時間になり、とても感謝しています。



実施施設名：社会福祉法人房総双葉学園

プログラム名：「体を使っていっしょにあそぼう」

日時：2017年8月4日(土) 10:30~12:00
場所：地域交流ホール
参加者 26人
(子ども21人 施設関係者5人)
指導者：劇団風の子(大潤弘幸 いずみ凜)

ワークショップの内容

幼児：いろおにさんぽ だるまさんがころんだ かくれんぼ
小学生：いろおに とんとんぱ 協力しないお絵かき かくれんぼ しんげんちは誰？

「いろおに」で赤、青、ピンク…しましま、水玉、シワシワと行くと、大潤さんのシワシワのシャツに群がったり、シワシワを自分でつくって「ホラッ！」と見せた。「すごいね。自分でシワシワ作ったんだね！」と大潤さんに見つけられてうれしそうだった。「歩こう 歩こう♪」のさんぽの歌でぐるぐる歩き周り、歌が止まって「みみず」「ゴキブリ」「ぶた」「へび」のポーズをした。みみずをひっぱってパチンとはなす、ゴキブリに驚く、ぶたをなでなでするなど、イメージして体で表現するあそびは楽しそうだった。「アハハハいいね！」と言われた子はびよんびよん飛んでいた。

子どもの声

- ・今日は楽しいあそびをいっぱい考えてきてくれてありがとうございました。とくに楽しかったのは、「とんとんぱ」と「かくれんぼ」。
- ・「かくれんぼ」でみつかるかな！と心配でみつからなくて楽しくておもしろかった。
- ・おえかきがたのしかった。
- ・リーダーをさがすのがうまかったよ。もっとかくれんぼをやりたいかった。

施設関係者からの声

- ・道具を何も使わないでこんなに楽しく遊べるんだ、と驚いた。
- ・久しぶりに学生時代に子どもたちと遊んだことを思い出して遊んだ。楽しかった。



おえかきをやっているところ

実施施設名：社会福祉法人鳳雄会 ほうゆうキッズホーム

プログラム名：「体をつかって一緒にあそぼう」

日時：2018年8月7日(火) 13:30~14:40
場所：2F 地域交流スペース
参加者 40人
(子ども30人 施設関係者10人)
指導者：劇団風の子(大潤弘幸 近藤和美)

ワークショップの内容

色オニ、トントンパ、だるまさんがころんだ、うん!そうしよう、○△×□を使ってみんなで顔をかこう、かくれんぼ



色オニの3回目くらいからだんだん声が出て「おにさん何色ですか?」とみんなでそろって思いっきり大きな声を出した。声を出すことで連帯感も生まれていた。おおまくんとトントンパ対決、キャーキャー、キャハキャハ嬉しそう。ヒーローインタビューでポーズ。「おもしろーい!」と思いきり褒めてもらい嬉しそうだった。



協力しないお絵かきは、「ね一見て一、おおまきて一」と、見てもらいたくて呼んでいた。できた絵をおおまくんが何と言うかクククク笑いながら待っていて、何を言われてもうれしさが止まらない感じ。かくれんぼ、先生やスタッフの後ろに隠れたり、マットの間、机の下、カーテンの後などに必死に隠れた。中には、壁になってけらけら笑ったり、おおまくんの前でエグザイルのようにおどって目を引くようにしたり、ピアノの下から足を出したりと見つけてもらうのがうれしそう。見つからなかった子も得意顔だった。

子どもの声

- ・かくれんぼや色鬼やだるまさんがころんだや、おえかきとかで遊んでくれてありがとうございます。またきてください。
- ・きょうは、いっぱいあそんでくれてありがとうございます。かくれんぼや、だるまさんがおもしろかった

施設関係者の声

- ・生き生きしていて、声がどんどん大きくなっていった。
- ・大きい子も中に入って遊んでいた。一体感があった。
- ・普段話を聞ける子じゃない子も話を集中して聞いていた。
- ・そのままでもいいんだという大潤さんの雰囲気が良い。
- ・子どものパワーが想像以上だった。

実施施設名：社会福祉法人恩寵園 児童養護施設恩寵園

プログラム名：「アフリカンリズム&パーカッション」

日時：2018年8月10日（金）9：30～10：30
場所：大食堂
参加者36人
（子ども30人 施設関係者6人）
指導者：ビタシカオフィス(B.B.モフラン
ダウディ 典子)

ワークショップの内容

3曲歌を披露 コロコカタコリソー等
日本の言葉の発音に似ているが意味が違
う言葉を紹介 「ま」と「め」で声を出
す 太鼓を叩くワーク バラード ダン
ス アンコールでソーラン節



モフランさんが「ジャンボ！」とあいさ
つした。3曲、歌を披露した。曲のひと
つ♪コロコカタコリソー♪はスワヒリ
語で「気をつけて」という意味だが、日
本語の「肩こり」に聞こえ、??とニヤ
ニヤ顔と笑い声が出た。まだまだある
よ。日本語でミソ⇒目だま だからみそ
ラーメンは目だまラーメンだね。チョー
マジ⇒チョーはトイレ マジは水。へ
え！おもしろい という感じでざわつ
いた。2グループに分かれて「ま」と「め」
の大きな声を出す。

太鼓ワークの1回目7人が手を挙げた。「♪
ブタニク ブタニク ブタニク たべたい
な♪」と口ずさみながら太鼓をたたいた。幼
児が上手にたたいた。3回目 なかなか手が
あがらない。やりたいけど…どうしよう や
る？ やらない？お互いにけん制しあっ
ていた。ジャンケンで負けた中高校生が前に出
てはずかしそうに叩いた。バラードの曲はじ
っと聞いていた。「ハクナマタタ」に合わせ
てダンス、頭 肩 腰 ティキティキティと体を
動かした。大きい子たちは、ちょっと恥ずか
しように小さな動作で体を動かしていた。

子どもの声

- ・今日はありがとうございました、すごく楽しかった。
- ・とてもおもしろかった。また来てください。
- ・またタイコたたきたい！ ダンス楽しかった。
- ・ステキな演奏と歌声、サイコーだった。楽しかった。また来てくれるとうれしいです。

施設関係者の声

- ・普段体験できないジャンベの演奏を聞くことができ、とても有意義な時間になった。子どもたちも一歩踏み出せない部分もあったが、とても楽しんでいた。
- ・幼児・低学年は全身でリズムをとって楽しんでいた。演奏から「生命」「生きる」ことを感じた。

実施施設名：ひかりの子学園

プログラム名：「アフリカンリズム&パーカッション」

日時：2018年8月22日（水）16：00～17：00
場所：食堂
参加者39人
（子ども29人 施設関係者10人）
指導者：ビタシカオフィス(B.B.モフラン
ダウディ 典子)

ワークショップの内容

3曲歌を披露 日本の言葉の発音に似てい
るが意味が違う言葉を紹介 「ま」と「め」
で声を出す 太鼓を叩くワーク バラード
ダンス アンコールでソーラン節



アフリカ言葉でミソラーメンは目玉ラーメン ワ
ハハハハハと、子どもたちの笑い声が高くな
った。2グループに分かれて「ま」「め」の合唱。モ
フランが「good」「good」と褒め、だんだん乗ってきた。
「太鼓を叩きたい人」とモフランが言うと、さっと
手が上がった。「♪ぶたにく♪ぶたにく♪ぶたにく♪
やすみ」と左側4人が叩いた。右側の4人は「♪た
べたいな」できた！すごい！モフランが褒めると、
満面の笑顔で叩く子どもたち、ロールの打ち方も力
強かった。

さあ！みんな立って！頭 肩 腰 ティキティキティ 大きな
声も出てみんな笑顔ではねながら踊って最高潮に盛り上
がった。最後は早いリズムでソーランを踊って楽しそう。

子どもの声

- ・日本とアフリカ言葉が似ていても意味がちがうことがわかりとても勉強にもなった。(ほぼ全員)
- ・タイコをやった時は、今までにたたいたことのないタイコだった。ダンスの頭、かた、こし、デケデケでもおもしろかった。(ほぼ全員)
- ・アフリカ言葉をたくさん知りたいなと思った。歌がとても楽しかったので、いつかアフリカに行って聞いてみたくになった。

施設関係者の声

- ・たくさんの笑顔があふれ、子どもと一緒に楽しく過ごせた。当日の夜、子ども達から「～が楽しかった」「～がおもしろかった」という声がたくさん聞かれた。
- ・笑顔になることでストレスも発散でき、心も軽くなった気分だった。終わってからも子どもたちといっしょに口ずさんでいる。ハクナマタタ～。
- ・さすが…ですネ。子どもたちのハートをつかむことを軽々とやっていて、本当に私達も見習わなくては…と日常業務のとりかかる姿勢を反省した。

実施施設名：社会福祉法人児童愛護会 児童養護施設一宮学園
ワークプログラム名：「アフリカンリズム&パーカッション」

日時：2018年8月31日（金）13：30～14：30
場所：体育館
参加者 58人
（子ども40人 施設関係者18人）
指導者：ピタシカオフィス（B.B.モフラン
ダウディ 典子）

ワークショップの内容

3曲歌を披露 コロコロカタコリソー等日本の言葉の発音に似ているが意味が違う言葉を紹介 「ま」と「め」で声を出す 太鼓を叩くワーク バラード ダンス アンコールでソーラン節



はじめ、戸惑っている様子だったが、ライオンキングの曲が始まるとたん「おーっ」という声が上がらずぐ手をたたき出し、体も乗り出した。緊張はほどけてきたのがよくわかった。どんぐりころころとおもちのチャチャチャはみんなコロコロよく笑いいっしょにうたい、男の子たちは張り切ってニコニコ顔で目を輝かせて手をたたき、互いの様子を見て笑い合う姿も出てきた。ジャンベとドゥンドゥンバを「ぶたにく」のリズムと「たべたいな」のリズムで叩いて合奏した。マライカ（天使）の美しい声と優しい曲調に聴き入り、大拍手がおきた。

ラストは「頭 肩 腰 ティキティキティン」振りをつけて踊り、キリンやタコの動きを間に入れながら男の子はノリノリで跳ねまくりの踊りまくり。笑顔満開の男の子が前に出て、ますます皆がはじけた。つられてシャイな女の子たちも最後にはニコニコして踊っていた。



子どもの声

- ・とてもおもしろくてたのしかった。
- ・みなさんの歌声がキレイで歌もうまくて見入ってしまった。楽器もとてもじょうず。太鼓を立ちたことも、ダンスを踊ったこともいい経験になった。言葉が日本と同じ言葉なのに、全然違う意味でビックリしまい、勉強になった。本当に本当にまたきてください。

施設関係者の声

- ・子どもたち共々楽しい時間を過ごすことができた。普段はおとなしい子が楽しそうに笑顔で踊っていたりと、いつもと違った面がみられた。素晴らしい時間だった。

長期入院、児童福祉施設等子どもたちに楽しい時間と笑顔のプレゼント事業

ガイドライン

一部抜粋

具体化にあたっては、当団体が作成した病院や施設での安心安全に留意した「ガイドライン」に添って、綿密な打ち合わせを行いました。「ガイドライン」の基本的な考え方は、子ども権利条約の精神にのっとり、チルドレンファースト（Children First）、子どもたちの幸せと快適な生活を守ることを最優先していることです。出演者、コーディネーター、スタッフはどの会場においても、次のような「基本的視点」が活かされる公演やワークになるように努めました。

基本的視点

「子どもの権利条約」第31条では、すべての子どもが休息・余暇・遊びおよび文化的芸術的生活に自由に参加できる機会を保障されるべきことが提起されています。子どもにとって遊びや舞台芸術に触れることは、単なる娯楽に留まらず、成長発達に欠かせない糧であり、これによって情緒的ウェルビーイングが向上することが明らかになっています。また、みんなで体験することが、子ども・家族・医療関係スタッフ・児童養護施設・舞台芸術関係者の心と心を繋ぎ、子どもをエンパワーし、治癒力や自己肯定観を高める効果があると言われています。

- ・子どもの病状の悪化につながらない限り、子どもの自己決定を最優先します。
- ・一人一人の子どもが達成感や満足感を得られるよう、可能な限り個々の子どもの気持ちや各自のペースに寄り添います。
- ・子どもたちのプライドを尊重し、あらゆる表現を認め、受け止めます。
- ・子どもの病状を理解し、本人が楽しめるよう望む限りの手助けを行います。そのために、可能な限り子どもの意見や意思を確認するようにします。
- ・気持ちが安らぎ笑顔がうまれる遊びや、舞台芸術を心地よく体験できるよう、子どもの言葉を大切に聴き、表情を読み取り、共感する姿勢を持ちます。



事業成果 6病院 7児童福祉施設 参加者合計768人 (子ども477 大人291)

*6病院にプロのパフォーマーによる公演を届けた。病室を出られない子どものために病室訪問も合わせて実施した。子どもはもちろんのこと、保護者の息抜きができ、癒され、余裕のない心をほっこりさせることができた。保護者にとってもこうした時間が必要だとの感想が寄せられた。病室訪問は、一人ひとりの子どもに寄り添うように語りかけ、子どもたちの反応と笑顔は感動的だった。重度心身障害者は、身体全体でリズムを感じ、声がいっぱいあがり、看護師さんも驚くくらい顔の表情が生き生きしていた。QOL向上につながる貴重なプログラムだった。

*7か所の乳幼児を含む児童養護施設は参加型の遊びやワークショップを届けた。プロのパフォーマーは、子どもたちをそのまま受入れ、安心できる雰囲気の中で、遊んで 踊って 触れて 笑い声いっばいに嬉々と参加していた。子どもたちはパフォーマーへの信頼感をもち、一瞬に表情が明るくなり気持ちを開放していく様子がみてとれた。

家庭的、社会的事情を抱えている中で成長する子どもたちにとって、大人への信頼を回復すること、コミュニケーションをとること、楽しい気持ちを味わい、相手を認め、自分も大事にすることを実感でき、QOL向上になる確信がもてた。芸術的な手法で子どもたちの心身にかかわる効果は高く、今後も県内に拡げ継続していきたい。



【ちば子ども文化地域コーディネーター】

市川淑江 宇野京子 大森智恵子 岡田泰子 大塚るい 買場都明
加藤香都代 笠原直子 桑原信子 椎名好子 塩沢千秋 白鳥みゆき
鈴木佳子 滝口淳子 棚田純子 多田優子 戸田綾 渡慶次康子
中村雪江 中村幸恵 中川香子 綿貫のぼら

「長期入院や児童福祉施設にいる子どものQOL向上のための笑顔のおくりもの事業」報告書

発行日：2019年 2月 25日 (月)

発行者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102号

TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263

メールアドレス：kidchiba@lily.ocn.ne.jp

この報告書は2018年度年賀寄附金配分事業の助成金で作成しました。内容を無断で引用・転載することはかたくお断りいたします